

## バックカントリーの魅力

この時期の大雪山系にはさまざまな滑り手のパワーがあふれています。

最高のタイミングを求める地元の人もいれば、最高の技術を探求し努力している人、はるか遠く異国の地からシャンパンパウダーを求めやってくる人達。そして皆が安全かつ楽しく滑るために、日々努力しているガイドさん達など。昨今のバックカントリースキーブーム（スノーボード含む）でニュースやメディア等でも話題として取り扱われているので、皆さんも目にすることが多くなってきたのではないのでしょうか。

ではバックカントリースキーとは何なのでしょう。簡単にいうと、昔から馴染み親しまれてきた山スキーなんです。そしてわが町の山、旭岳は国立公園ですからスキー場ではなくバックカントリーのエリアとなります。

スキー場やゲレンデで滑るアルペンスキーではなく、山を登って自然の深雪の中を滑り降りてくるわけですが、もちろんすべて自己責任です。しっかりとした装備、経験、知識が必要です。万々に備えて非常用食料、防寒具、雪崩対策装備（ビーコン、ショベル、ゾンデ）、GPSと地図、コンパスを準備し、入山届けに加えて、出来れば山行計画書も提出しましょう。

勘違いや混同される方も多いと思いますが、旭岳の



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。



3月下旬、まだ冬真っ盛りの旭岳はスキー、スノーボード客でにぎわいます（姿見付近）

いわゆるスキーコースは、あくまでも冬の登山道として存在しています。スキー場のゲレンデコースとは違うので、遭難や雪崩の危険性がある冬山であることを認識して入山しなくては行けないのです。

このように言うと小難しい内容ですが、冬の大雪山の景色、雪は世界に誇れる素晴らしいものです。旭岳を滑ってみたい、バックカントリーに興味があるという方は、まずはプロの自然ガイドさんに案内、同伴を頼ってはいかがでしょうか。寒くて辛い冬、というマイナスイメージの世界観が大きく変わるかも…。と、僕のお店ノマドにてたびたび聞かれる話題を少し書かせていただきました。

山は今日もきっと良い雪が降っています。安全かつ楽しいシーズンを過ごしましょう。

ノマド店主 小畑 吾郎



## ウズベキスタンの春分の日、ナウルーズ

国際交流員 ニグマノヴァ・ナルギーザ

私が育ったウズベキスタンでは、3月21日は「ナウルーズ（ノウルース）」という祭日です。イラン暦の元日で、ペルシア語で「新しい日」という意味です。

ナウルーズはウズベキスタンをはじめカサフスタンなど中央アジアの国々、トルコ、イランなど西アジアやインドなどの南アジアの国々で祝っています。

この日は休日で、家族みんなで遊園地に出かけたり、男性がプロフ（ピラフ）を作ったり、前日には隣人の女性が集まって、踊りながら、発芽させた小麦で作った甘いデザートスマリヤク（茶色のペースト状のもの）を食べたりします。スマリヤクは甘くて、甘いものが好きな私にとっては最高のデザートです。今年は日本にいるためスマリヤクを食べられなくて残念です。しかし私の夫と子どもは甘過ぎて「ましうい」というので、すべての日本人の口に合うわけではないかもしれません。



首都のタシケントにあるナポイ公園広場で、大統領も参加する大きいコンサートが行われます。ほかの公園でも無料のコンサートが行われ、散歩をしたり、ともに食事をしながら誰でも楽しめます。いつかぜひスマリヤクを食べるためにウズベキスタンに来てくださいね！